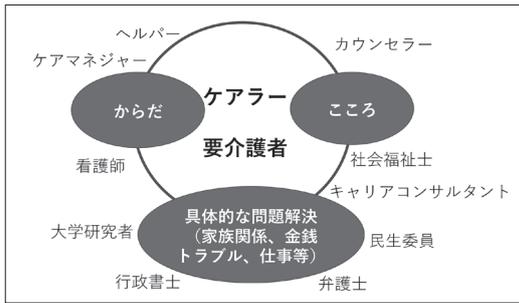


家族介護者(ケアラー)を地域で支えるプロジェクト ～多職種連携で介護の社会化を目指し、みなに優しい 高齢社会をつくる～

松田 美南子 ●特定非営利活動法人こもれび相談室 代表理事



本活動における、ケアラー支援のための多職種連携図

1. 背景と目的

日本では、要介護者を介護する家族介護者(ケアラー)に対する心理ケアは介護保険制度でサポートされておらず、ほぼ行われていない状況である。ケアラーの置かれる状況は、次のような特徴がある。

- ・医療介護以外にも家族間トラブル、家計、仕事、住まいなど複合的な問題を抱える。
- ・「家族だから自分が介護しなければ」という強い義務感に抑圧され、心身の不調を引き起こしていることがある。
- ・自身の状況に関する自覚が乏しいことが多く、周囲や地域の理解と気遣いが必要。
- ・要介護者は、認知症、ALSや脳梗塞などの病気、知的障害、発達障害、精神疾患、引きこもりなど様々で、ケアラーの感情は状況の変化によって乱れやすい。

ケアラーの抱える問題は、金銭や家族間トラブルなど具体的な問題解決が必要な場合が多いものの、相談先が少ない。熱心な医療介護スタッフが時間外で話を聞いている場合もあるが、解決は難しく現場の疲弊にもつながる。頼れる人がいないケアラーは孤立を深め、抱えている問題も時間とともに肥大化し、複雑化する。心中や虐待といった痛ましい事件も起きており、彼らへの支援をどう

行っていくかは社会的課題である。

2. 取り組みの方法

ケアラーの抱える問題と背景を理解した上で、多職種連携による支援が必要である。このため、当法人が拠点を置く大阪府池田市において、医療、介護、法律、相談の専門職、大学研究者が連携し、ケアラーに対する心理ケア、医療介護の適切な情報提供と支援、法的支援を行う。身体健康とメンタルヘルス、人間関係や金銭に関する悩み事などをワンストップで気軽に相談でき、必要に応じて迅速に適切な対応を取れる機能を持つネットワーク基盤づくりに着手する。具体的には、

- ・来所、訪問による相談窓口開設…これまで住民からの求めに応じて都度行っていた相談を定期常設とし、専門職が連携して対応する。
- ・ケアラーを地域で支える普及啓発イベント開催…ケアラーに対する支援について、具体的な問題解決支援と心理ケアの重要性を普及啓発する公開イベントを開く。
- ・リーフレット「介護がづらいあなたへ」作成…「一人で悩まないでほしい」というメッセージを盛り込み相談窓口などを記載。

3. 期待される成果

ケアラーへの支援や負担軽減を行うことで、要介護者に提供されるサービスの質向上につながり、地域包括ケアの向上に貢献することが期待される。ケアラーの心身が追い詰められるほどの状態である場合、成年後見など別の手立てを用いることが可能であるという認識を広げること、介護の社会化の一助となろう。